

PRESS RELEASE

2014年4月

「中村誠の資生堂 美人を創る」

MAKOTO NAKAMURA, SHISEIDO AD ARTWORKS

開催のお知らせ

資生堂ギャラリーでは、昨年永眠したグラフィックデザイナーでアートディレクターの中村誠（1926-2013年）の回顧展「中村誠の資生堂 美人を創る」を開催します。

中村は1949年に資生堂に入社。1950年代半ばから80年代にかけて数多くの広告を手がけてきました。国内外で多数の賞を受賞しているほか、MoMA（ニューヨーク近代美術館）に作品がコレクションされるなど、世界的にも高い評価を受けています。本展は、中村誠の資生堂時代の仕事を詳細に振り返る、没後初めての回顧展となります。

中村の功績は、戦前に確立された資生堂のイラスト広告を写真広告へと転換させたこととされてきましたが、その仕事をつぶさに見ていくと、戦前のイラスト表現の伝統を色濃く受け継ぎながら、製版の工夫や大胆なトリミングなどの手法を用いて、写真を素材とする独自の表現スタイルを確立していったことがわかります。

また、中村は「一業、一社、一生、一広告」をモットーに企業デザイナーという立場を貫き、「企業のアイデンティティをビジュアライズするのがアートディレクターの仕事」と語っていた通り、生涯、企業イメージの創出に力を注ぎました。「計数に表現することのできない表情とか、雰囲気、空気感」を大切にしてきたという中村のデザインには、すべてを描き切らないことで生まれる「間」や「気配」が存在し、その美しさが企業のアイデンティティを宿していたのだと考えられます。

本展では、中村の創作プロセスを自宅に遺されていた未公開資料を交えながら明らかにし、彼が生涯追求し続けた美の世界と、企業とデザインの豊かな関係を紹介します。

【展覧会概要】

「中村誠の資生堂 美人を創る」 MAKOTO NAKAMURA, SHISEIDO AD ARTWORKS

会期：2014年6月3日（火）— 6月29日（日）

11:00-19:00（日曜のみ 11:00-18:00） 毎週月曜休 入場無料

会場：資生堂ギャラリー（〒104-0061 東京都中央区銀座 8-8-3 東京銀座資生堂ビル地下1階）

TEL 03-3572-3901 FAX 03-3572-3951 <http://www.shiseidogroup.jp/gallery/>

主催：株式会社 資生堂

企画協力：柏木博（武蔵野美術大学 教授）

【展覧会の見どころ】

① イラスト的な写真表現の追求

高度経済成長期を迎えた日本では、広告もテレビ CM など新しいメディアを用いたキャンペーン広告へと移り変わっていきました。デザインの世界も、アメリカからアートディレクター制度が持ち込まれるなど、変化を遂げていきます。

そうした中で、中村誠は戦前に確立された資生堂の伝統的なイラスト広告に写真を持ち込んだ人物と評されてきました。しかし、イメージの加工や印刷工程で施された手法はむしろ絵画的であり、戦前のイラスト表現の伝統を色濃く受け継いでいることがわかります。初期の広告では、砂目や手描きスクリーンなど製版の過程の工夫により、写真をイラスト的に表現することに成功します。その後も、宣伝部のデザイナーたちとともに大胆なトリミングやソフトフォーカス、写真をゆがめるなど独特の表現を追求し、やがてそれらが中村デザインの大きな特性となっていきました。本展示では、自宅に遺されていた記録写真や校正刷りポスターも紹介し、中村の創作プロセスに迫ります。



1

② 「^{けししょう}気粧」の美しさに込められたもの

中村誠らしさが顕著に現れているのは、モデルに山口小夜子を起用した広告や、香水のシリーズ広告です。山口小夜子について中村は「彼女の美しさは化粧ではなく『気粧』の美しさである」と語っていました。また制作にあたっては「計数に表現することのできない表情とか、雰囲気、空気感。誇張して言うと『人間の存在感と心』」が現れることを大切にしていたと述べているように、中村の手がけた広告にはすべてを描き切らないことによって生まれる「間」や「気配」が存在しています。「フォルムではなく、企業の個性、キャラクターをどう表現するか」を常に考えてきたという中村。「間」や「気配」に宿る美しさに込められていたのは、「資生堂」そのものであり、企業のアイデンティティーだったと言えるでしょう。中村の美意識が存分に味わえる、傑作ポスターの数々を紹介します。



2

◆中村誠 Nakamura Makoto (1926-2013年)



1926年、岩手県盛岡市の商家に生まれる。近所の薬局のショーウィンドーに飾られていた資生堂の広告ポスターに憧れ、デザイナーを志す。東京美術学校（現・東京藝術大学）に在学中の1947年に資生堂（宣伝文化部広告課）に嘱託として勤務、卒業後の1949年に資生堂に入社。高度経済成長を背景にテレビCMなど新たな広告メディアが登場する中、写真を用いた広告表現で頭角を現す。印刷技術を駆使したグラフィック表現の追求と、独特の美の世界観は多くの人を魅了し、国内外で数々の賞を受賞、高い評価を受けた。

1969年 資生堂宣伝部制作室長、1977年 宣伝部長兼制作室長、1979年 役員待遇宣伝部長、1987～2000年 資生堂顧問。活動の幅は広く、国際グラフィック連盟（AGI）会員、東京ADC委員、JAGDA理事を務めたほか、後進のデザイナー育成にも力を注ぎ、戦後の日本デザイン界の発展に大きく貢献した。1993年 紫綬褒章受章。2013年6月2日、87歳で逝去。

【展示予定資料】



3



4



5



6



7

1「資生堂スペシャル化粧品」1963年
 2「資生堂練香水 舞」1978年 3「資生堂ネイルアート・資生堂フラッシュアイズ」1973年 4「資生堂香水舞」1984年 5「資生堂香水 すずろ」1981年 6「資生堂海外向け企業広告」1963年 7 1980年代頃の制作の様子

1～6 AD, D: 中村誠 Photo: 横須賀功光 2、4、5 Model: 山口小夜子

※1、3、6について調査をいたしましたが、モデルの肖像権についての確認が取れませんでした。情報をお持ちの方は資生堂ギャラリーまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

【同時開催】

「Beauty Graphics 2014 3人の資生堂アートディレクター展」

現在の資生堂宣伝・デザイン部に在籍するアートディレクター、志賀玲子・花原正基・西本歩の3名が、自由なイメージで次代の美人像を表現するポスター展です。

会期：2014年6月2日（月）－6月28日（土）

平日 9:00～19:00 土曜 11:00～18:00 毎週日曜休 入場無料

会場：資生堂銀座ビル2階（中央区銀座7-5-5）

主催：株式会社 資生堂

協力：凸版印刷株式会社

【お問い合わせ先】

展覧会について	株式会社 資生堂（企業文化部） 担当：小泉 TEL 03-3575-5432 FAX 03-3572-5429 gallery@to.shiseido.co.jp
写真資料請求先	資生堂ギャラリー 担当：永田・大橋 TEL 03-3572-3901 FAX 03-3572-3951 gallery@to.shiseido.co.jp (11:00-18:00 月曜休)